

保健室だより



平成 20 年 10 月発行
大正大学保健室

秋学期がスタートしました！ 今回は「結核」について考えてみましょう。

結核は決して「過去の病気」ではありません。現在でも、毎年全国で約 2 万 7 千人、東京都で約 3 千数百人の人が新たに結核を発病しています。特に、東京都は、若い世代の人が多いのが特徴です。結核は「若い人」でも注意が必要です。

結核は「日本の重大な感染症」です。結核を知ることが予防への第一歩、正しく理解して自分自身の健康を守りましょう。

“結核の基礎知識”



◆結核とは

結核とは、「結核菌が体の中に入ること」によって起こる病気です。結核は肺以外でも起こりますが、約 9 割が「肺の結核」です。結核は「くしゃみやせき」から広がります。空気中に放出された「しぶき」に含まれる結核菌を、周りにいる人が吸い込んで感染します（飛沫核感染）。

◆結核の症状は

肺結核は感染しても、最初のうちは症状がほとんどありません。発病すると始めは「せき、たん、発熱」の症状が出ますが、風邪の症状に似ているため、発見が遅れることがあります。

「2 週間以上」せきなどの症状が続いたら、マスクをして医療機関で受診しましょう。『**早期発見が決め手**』です。

◆結核の「感染」と「発病」についての違いは

■「感染」とは、体内に結核菌が残っていても、体の免疫が働き、結核菌の活動を抑えこんでいる状態を言います。

■「発病」とは、感染後、結核菌が体内で活動をし始めて病巣ができ、せきやたん、発熱などの症状が現れた状態です。

発病は感染した「10 人の内 1~2 人程度」で、感染後 6 ヶ月~1 年後くらいに多く見られます。中には何年、何十年も経ってから発病したり、一生発病しない人もいます。

■結核に感染していても発病していない人は、他の人に感染させることはありません。



◆結核の検査は

結核菌検査：結核の重要な「決め手」です。

たんや胃液などに結核菌がいるか調べます。

胸部 X 線検査：「肺の状態」を見ることができます。

結核菌による炎症や空洞が肺の中にどのくらい広がっているかがわかります。

ツベルクリン反応検査・QFT 検査：感染しているか調べます。

*ツベルクリン反応検査は、BCG（結核の予防接種）の影響が出て、**確実に判断するのが困難**であるため、QFT 検査（血液検査）が多く行なわれるようになっています。

◆結核の治療とは

■結核を発病しても、現在は良い薬が開発されており、きちんと服薬を継続すれば、**結核は治ります**。

■薬は症状にあわせ原則として**3~4 種類**を組み合わせます。多くの場合は、**半年~1 年**くらいの間内服します。

■たんに菌が出ていた場合でも、治療を始めて**通常 2 週間程度**経つと、周りの人へ感染することは少なくなります。

■合併症の検査や薬の調整も含め、菌検査で菌が出なくなるまでは入院が必要です。**入院の期間**は症状によっても違いますが、**普通 1~4 ヶ月**くらいです。

*毎年、「**定期健康診断**」を受診しましょう。



*結核の予防は「**心と体にゆとり**」のある生活が有効です。